

## 第2回「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」干潟観察会の概要

- 日 時 令和4年10月8日(土) 10:30~15:30
- 場 所 阪南2区人工干潟(岸和田市)
- 主 催 CIFER・コア、共和海建グループ、きしわだ自然資料館
- 参加者数 61名(CIFER・コア11名、共和海建グループ15名、きしわだ自然資料館35名(うち子供13名))
- 行 程
- 10:30 地藏浜 みなとマルシェ集合 主催者三団体各代表あいさつ
  - 11:00 出航 使用船舶「ケイエース(定員48人)」、「あすか(定員30人)」
  - 11:10 「あすか」阪南2区棧橋に着岸
  - 11:30 「ケイエース」阪南2区周辺海域をひと回り後に阪南2区棧橋に着岸
  - 11:35 きしわだ自然資料館 柏尾氏より講師の紹介
    - ・山田 浩二氏(貝塚市立自然遊学館 甲殻類)
    - ・大古場 正氏(大阪市立自然史博物館 貝類)
    - ・花崎 勝司氏(きしわだ自然資料館 魚類)
    - ・柏尾 翔氏(きしわだ自然資料館 海域生物)注意事項(安全対策)と生息する生き物の説明
  - 11:45 生き物観察開始(別途共和海建グループが護岸清掃)
  - 13:10 生き物観察終了
  - 13:20 帰港
  - 13:30 地藏浜みなとマルシェ等で昼食・休憩
  - 14:30 鰯巾着漁協セリ場において、採集した生き物の観察と講師による説明
  - 15:30 終了 解散 堺泉北埠頭(株)提供のボールペンとフィールドノートの配布

### ○概 要

「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」は、CIFER・コアが企画調整、共和海建グループが船舶航行・施設整備、きしわだ自然資料館が生き物観察の指導という役割分担で進めている三者共催の取り組みです。令和4年5月4日(祝・日)にトライアルを行い、第1回目の干潟観察会を5月29日(日)に開催しました。第2回目となる今回は、当初7月31日(日)を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期し、10月開催となりました。

当日は前日の大雨が上がり、何とか観察のできるお天気となりました。2隻準備した旅客船のうち、一般参加者が乗船した1隻は地藏浜を出発し、阪南2区(ちきりアイランド)を一周し、埋立地全体を見ていただいて干潟に向かいました。その船内では、大阪港湾局の但馬氏から、阪南2区の概要と生息する生き物についてパネルを使った説明がありました。干潟での生き物観察時は潮位が低く、干潟が広く見えました。柏尾学芸員から観察時の注意事項と干潟に生息する生き物の説明などがあった後、参加者による生き物観察が始まりました。



生き物観察では、バケツや網を持ち、石の下などにいる生き物を採集しました。特にマテガイの採集は大人気で、巢の周辺の穴を掘り、塩をかけてマテガイが顔を出すのを待って捕まえるという独特の採集方法に多くの参加者が熱中していました。予定を 30 分ほどオーバーして、採集した生き物を抱えて船に戻りました。

地蔵浜では、下船場所近くに設置されているコンテナハウスの中の「Harbor Station」に、阪南2区について説明された十数枚のパネルが共和海建グループにより展示されており、参加者が熱心に見入っていました。

その後、北隣の鰯巾着漁業協同組合のセリ場を借りて設置した特設会場において、採集した生き物について種の同定が行われました。参加者は図鑑などを基に、採集した生き物を自分たちで確認しました。わからない種については講師から特徴や性質などの説明を受け、同定作業を進めていきました。同会場には共和海建グループの石田氏により、阪南2区付近の海域で獲ったアナゴ・タコ・カ二等を参加者が触られるようにいくつかの水槽に入れて展示されており、子供たちは目を輝かせて生き物とのふれあいを楽しんでいました。

大阪湾の埋立地に自然が再生し、多くの生き物が生息していることを感じてもらうことは、大阪の海を知ってもらう良い機会になります。今後も子供たちをはじめ、多くの住民の皆様環境の保全や再生について考えてもらえるように、本活動を継続していきたいと考えています。



みなとマルシェの棧橋から出航



阪南2区についての説明（船内）



マテガイの採集に挑戦



干潟観察会の様子



Harbor Station の展示の様子



講師陣の指導のもと、採集生物の観察と種の同定が行われました



セリ場に展示された水槽に集まる子供たち